

おおだて 市立総合病院・市立扇田病院

# 病院だより

第20号

おおだて病院だよりは、  
市民・患者さんと  
市立総合病院・市立扇田病院を  
つなぐ広報誌です

2016.12

No.20

発行者：大館市病院事業管理者 佐々木睦男  
編集：大館市立総合病院 広報委員会  
住所：大館市豊町3-1(総合)  
大館市比内町扇田字本道端7-1(扇田)  
電話：0186-42-5370(総合) 0186-55-1255(扇田)  
URL：<http://www.odate-hp.odate.akita.jp>(総合)  
<http://www.oogita-hp.jp>(扇田)



## 地域を支えるドクター育成事業

10月19日に、秋田県主催の“地域を支えるドクター育成事業”が行われました。県北地域の高校生を対象とし、研修医による講話や院内見学、AEDの体験などを行いました。表紙の写真は、館岡院長より手術器具の説明を受けている様子です。



市立総合病院 院長 ひろし 博  
お か 岡  
た て 館

平成22年6月に創刊して以来、この病院だよりも第20号を迎えました。より身近に病院を感じてもらおう機会になっているでしょうか。

さて医師不足による地域医療崩壊が叫ばれていますが、この医師不足の過程には歴史的背景があります。ご年配のかたは無医村(医師のいない地域)という言葉覚えてのことかと思えます。この無医村の解消を目指し、国では昭和48年に県に一つ医学部を設置し、医師数を増やす方針を定めました。しかし、昭和63年からは医師過剰への懸念により医学部の定数を削減しています。このような流れの中で平成16年からは新臨床研修医制度が始まりました。この制度により全国各地でも研修先として選択可能になった結果、若手医師が都会へ流出し、地方では大学でも医師数が減少しました。地方大学からの医師派遣に依存する地方病院は医師不足に陥り、現在も続いています。もちろん当院も例外ではありません。国はこのような状況を解消すべく、各大学の定員、地方枠の拡大をもって対処していますが、今後医師が増え、市民の皆様がより安心して医療が受けられることを共に願うしかありません。

こうした医師不足の中、今ここで頑張っている医師達にねぎらいの一言でも掛けていただければ、日々の診療の励みになりますのでよろしくお願いいたします。



市立扇田病院 院長 なおき 樹  
お お 大  
も と 本

私は今、母校である自治医大(栃木県下野市)に向かう花輪線の車内でこの原稿を書いています。今回の旅の目的は秋田県担当の臨床教授として研修会に参加するためです。研修会では「学生の地域医療実習をいかに有意義にし、地域医療に臨む心を育てるか」、「地元大学の医学生といかに交流をし、共に地域医療を支えていくか」など、テーマを決めてグループ討論をします。卒業26年を経て同窓生の風貌は変わりましたが、それぞれの地域で医療に取り組む同志の心(マインド)は今もって熱く、毎回たくさんのエネルギーをいただいで帰ります。

さて、医師の偏在による地方の医師不足は全国的な現象ですが、大館市の医療現場も大変な状態で、皆様に大変ご迷惑やご不便をおかけしています。医師確保のため日頃からたゆまぬ努力を続けていますが、現行の制度下ではなかなか難しいのが現状で、(時間はかかりますが)学生や若手医師を地域で育んでいくことが大切だと思います。

先日は秋田県のドクター育成事業として、医師を目指す高校生13名が当院でセミナーを行いました。最後の感想発表では、「将来自分たちが地元の病院を支えていきたい」という決意がたくさん聞かれました。米代川を遡上するサクラマスのように、地元で育った医師が故郷に戻って来てくれることを祈ってやみません。

## 総合病院 新任医師紹介



呼吸器・循環器内科  
か とう とも  
加藤 朋 先生

大館の医療に貢献できるよう頑張ります。



産婦人科  
たい ま あや こ  
當麻 絢子 先生

診察や治療に不安を少しでも軽減できるように努めていきます。皆様と一緒に一杯努力させていただきます。



整形外科  
お の ひろ や  
小野 浩弥 先生

頑張ります。よろしくお願ひします。

# 紹介 します

## 認知症疾患 医療センター



認知症疾患医療センターは、地域における認知症の進行予防や生活の維持のために必要な医療を提供できる機能・体制の構築を図るため、認知症の鑑別診断、専門医療の相談等の対応、地域保健医療・介護関係者への研修等を行います。

当院の認知症疾患医療センターは10月1日より稼働を開始し、県内では当院を含め5つの医療機関が指定を受けています。

認知症は加齢により誰でも発症する可能性があります。根本的な治療薬は未だ開発中ではありますが、認知症は早期に見つけて治療を開始することで症状の進行を緩やかにできる可能性があります。本人とご家族が住み慣れた地域で安心して生活を続けるために早期発見および早期治療は非常に重要です。

当センターはどなたでも無料でご利用できます。医療や介護のこと、どこに相談したらいいかわからないなどお困りの際はご相談ください。専門の相談員が内容をお聞きして今後の対応方法などについて支援します。認知症の治療には医療・介護など多種多様な分野との連携が必要不可欠です。スタッフ一同精進して参りますので、地域の皆さまのご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

認知症疾患医療センター ☎0186-42-5370 (代表)

# 紹介 します

## 緩和ケア センター



皆さんは「緩和ケア」という言葉にどのようなイメージをお持ちでしょうか？

緩和ケアはがんと診断された時から始める、からだのつらさ（痛み・吐き気など）や気持ちのつらさ（不安・苛立ちなど）、社会的なつらさ（仕事上の問題・経済的問題など）などを和らげるケアのことを言います。当院では、医師・薬剤師・緩和ケア認定看護師・理学療法士・管理栄養士・臨床心理士・医療相談員の多職種スタッフによる緩和ケアチームを結成しています。治療の早期から患者さんだけでなく御家族のつらさにも焦点をあて、その問題を解決・改善することでQOL（生活の質）の向上、その人らしい生活が送れるように活動しております。また、緩和ケアの提供体制を充実させるための組織として、10月から緩和ケアセンターが発足しました。

「からだや気持ちのつらさを聴いてもらいたい」「緩和ケアを受けたい」など、不安やお困りごとがありましたら、担当医・担当看護師までどうぞお気軽にご相談ください。

患者さん・ご家族向けに開催している緩和ケアに関する研修会「もっともっと知ろう緩和ケア」の様子です

緩和ケアセンター ☎0186-42-5370 (代表)

お薬のいろんな疑問にお答えします。



## インフルエンザの薬について

毎年冬になると流行するインフルエンザの薬について説明します。現在3種類の薬のかたちがあります。

### ①内服薬

1日2回5日間内服します。飲み薬なので使い方が分かりやすいです。

### ②吸入薬

1日2回5日間吸入するものと、1回のみ吸入するものの2種類があります。しっかりと吸入ができる人には簡便なお薬です。

### ③注射薬

病院で1回だけ点滴します。点滴注射薬のため、薬を飲んだり吸入したりするのが困難な患者さんにも投与することができます。

主治医と相談し自分に一番合ったお薬を選んでもらいましょう。いずれの場合でも発症してから48時間以内に治療を始めること、処方されたお薬は、症状がよくなっても途中で服用をやめずに使い切ることが大切です。

最後に、インフルエンザにかからないよう、うがい、手洗い、マスク、湿度の調整など予防をしっかりと行いましょう。



## 入院患者さんへの面会の制限について

現在インフルエンザやノロウイルスの流行期に入っています。当院では流行が終息するまでの間、入院中の患者さんへの感染を防ぐため、面会を制限させていただいています。

面会は原則としてご家族を中心とし、マスクの着用をお願いしています。また、お子さんや発熱(37℃以上)、せき、のどの痛み、鼻水、吐き気、嘔吐、下痢等の症状があり体調不良のかた、所属する学校や職場、家庭内でインフルエンザやノロウイルスが流行しているかたは、面会を遠慮していただくようご協力をお願いします。



## 看護師奨学生を募集しています

大館市立病院(総合病院、扇田病院)では、平成29年1月31日(火)まで、平成29年度看護師奨学生を募集しています。看護師を養成する学校等に入学予定または在学中で、卒業後に大館市立病院へ勤務する意思を有するかたが募集の対象となります。詳しくは総合病院ホームページをご覧ください。

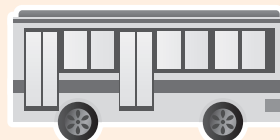


☎総合病院 総務課 0186-42-5370

総合病院ホームページ

<http://www.odate-hp.odate.akita.jp>

## 総合病院・扇田病院にお越しの際は公共交通機関の利用を！



冬期間、総合病院・扇田病院では除雪で寄せた雪などにより駐車場が狭くなります。駐車場における混雑を避けるため、なるべく公共交通機関をご利用くださるようお願いいたします。

☎総合病院 総務課 0186-42-5370

扇田病院 総務係 0186-55-1255

## 「患者さんの声」より

当院に寄せられたご意見を紹介していきます。

### 職員の名札、制服がバラバラでどの職種の人なのかわかりにくいです

制服はバラバラ、名札は字が小さいので、職種や役職が全くわかりません。見た目でもわかりやすくしてほしいと思います。

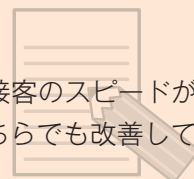


#### 病院から

ご指摘をいただきありがとうございます。名札の文字の大きさについては、平成26年10月より文字サイズをひと回り大きくしました。また、職種については、医師が緑色、医療技術者は黄色、看護部はピンク色、事務部門は水色と、色分けして名札にラインを入れています。職種の色分けについては院内掲示などで周知してまいりますので、ご理解くださるようお願いいたします。

### 院内コンビニの品揃えが不満です

秋田市から引っ越ししてきましたが、大学病院のコンビニと比べて品揃えが少なかったり接客のスピードが遅く、見劣りします。大学病院はコンビニカフェやコーヒーチェーン店などがあるので、こちらでも改善してほしいです。

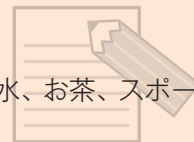


#### 病院から

ご意見ありがとうございます。当院のコンビニ担当責任者へ相談したところ、従業員の接客等については教育を徹底し、また品揃えについては店舗の規模による差はありますが、希望に応え充実できるよう努力したいとのことでした。なお、ご要望のありましたカフェについては、当院の事情により現時点では設置予定はありませんので、ご理解のほどよろしくをお願いいたします。

### 病棟に自動販売機を設置できないでしょうか

入院患者が一人で売店まで出歩けない時、介護さんをお願いしないといけないので、病棟に水、お茶、スポーツドリンク等の自動販売機を置いてほしいです。

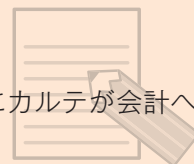


#### 病院から

ご意見ありがとうございます。売り上げの採算の関係で、設置業者が見つからないことや、動作音や落下音をうるさいと感じる患者さんもいらっしゃることから、現状では自動販売機の設置は当院では困難なものと考えています。どうかご理解のほどよろしくをお願いいたします。

### 受付機で受付した場合の待ち時間が長いです

受付機で受付してから外来にカルテが回るのが遅く、また外来の診察が終わっているのにカルテが会計へ戻ってこないため待たされました。

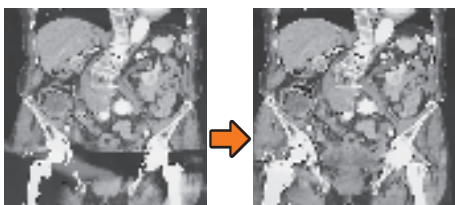


#### 病院から

このたびは待ち時間が長くなってしまい申し訳ありませんでした。投書の内容からでは当時の状況が詳しくわかりませんでしたので、予想される範囲でお答えいたします。まず、当院は電子カルテを運用しているため、通常は紙カルテを待って診察が遅れることはありませんが、患者さんが久しぶりに来院したり、参考のために過去の紙カルテを倉庫から取り出す際は、お待ちいただくこともあります。また、ほとんどの診療科は予約制となっており、予約のない患者さんの診察が予約患者さんの後になる場合もありますので、受付から診察までかなりの時間がかかることもあります。このような事態を受け、待ち時間を少しでも緩和できるように院内に「待ち時間対策チーム」を設置し、様々な方策を検討しているところです。待ち時間について不明な点がございましたら、最寄りのスタッフまでお問い合わせください。

# 扇田病院です!

## 患者さんに優しいCTを導入しました



人工関節による映像の乱れを抑制

### 特 徴

#### ①撮影時間が大幅に短縮

今までの4列CTより大幅に増えた80列の検出器により、広範囲を短時間で撮影できるようになりました。(胸部16秒⇒約3秒、腹部～骨盤20秒⇒約6秒など大幅に撮影時間が短縮)

#### ②高画質

0.5mm厚の薄いスライスで従来の装置より格段に高精度な画像になりました。

#### ③低被ばく

少ない線量でも今まで以上の高画質が得られるようになりました。(最大で75%減)

#### ④最新画像ソフトを搭載

CTの弱点である人工関節等の金属による画像の乱れを低減する機能をはじめ、最新画像再構成ソフトを搭載しています。

#### ⑤患者さんに優しい

CT本体がよりコンパクトになったことで威圧感が減り、一方で開口部は逆に広くなり圧迫感が減りました。稼働中の音も静かになり検査に対しての恐怖感が抑えられます。

10年間使用した4列CTを最新の80列マルチスライスCTに更新しました。従来の機器に比較して高画質、低被ばくで息止めの時間も短く、患者さんに優しいCTです。皆さんに安心して検査を受けていただくため、高性能CTに負けないようスタッフもスキルアップし地域医療に貢献して参ります。

## 地域医療実習への協力について

当院では地域医療を学ぶ実習生や研修医を受け入れています。今年度は秋田大学と自治医科大学から実習生、杏林大学と総合病院から研修医を受け入れ、若いエネルギーにより職員一同活気づいています。

当院での実習の特色は、在宅医療や訪問看護などこの規模の病院ならではの、患者さん一人一人の顔が見える医療現場と、都心部の大きな病院ではなかなか体験できない臨床検査科、放射線科、薬剤科などの分野での実習です。



此内ふくし会はなみずきにて実習



大館市特定健診会場にて

例えば、患者さんの病態に合わせた栄養指導を行うことが病状回復にいかに重要であるかなど、各種医療技術者が診療現場でどのような役割を担うのかを体験できます。

“若手の教育も医師の役目である”という方針のもと、地域医療の持続発展のため、実習生などの育成に積極的に取り組んでいきます。

# 外来診療のご案内

医師の都合や手術などのため、休診や受付時間を変更する場合があります。

## ～総合病院～

<b>受付時間</b>	<b>初診</b> 午前 8:30～11:00	<b>再来</b> 午前 7:30～11:00
-------------	-------------------------	-------------------------

特段の記載がない場合は、上記の受付時間になります。

科名	曜日	月	火	水	木	金	備考	
呼吸器・循環器内科	新患	受診の際は地域連携室までお問い合わせください						新患は原則として紹介状が必要です。現在、呼吸器内科の常勤医師が不在のため、外来患者の受付を制限しています。受診の際はあらかじめお問い合わせください。
	再来	9:30まで	9:30まで	休診	休診	9:30まで		
消化器・血液・腫瘍内科							新患は原則として紹介状が必要です。	
内分泌・代謝神経内科	新患	10:30まで	甲状腺診療	10:30まで	10:30まで	甲状腺診療	新患は原則として紹介状が必要です。神経内科は原則として再来予約のみの受付となります。(午後診療)※1	
	再来					10:00まで		
小児科								
神経精神科	新患	休診						他院の通院歴がある場合は紹介状が必要です。
	再来							
外科	新患							
	再来							
呼吸器外科	新患	予約のみ	10:00受付	予約のみ	予約のみ	10:00受付		
	再来							
産婦人科								
眼科	新患	9:30まで	9:30まで	9:30まで	9:30まで	9:30まで	新患は原則として紹介状が必要です。	
	再来							
耳鼻咽喉科								
整形外科		10:00まで(火曜日は再来のみ)						新患は原則として紹介状が必要です。専門外来は予約制。
泌尿器科		予約のみ						新患は原則として紹介状が必要です。
皮膚科				休診	再来予約のみ		木は再来予約のみの受付となります。	
脳神経外科	新患	10:30まで						新患は原則として紹介状が必要です。
	再来							
放射線科		予約のみ	予約のみ	予約のみ		予約のみ	新患は木のみで紹介状が必要です。	
歯科口腔外科・矯正歯科							再来は予約制。	

上記の表は11月中旬の情報をもとに作成していますが、診療体制の変更に伴い受付時間などが変更となる場合がありますのであらかじめご了承願います。また、変更があった場合はホームページへ掲載いたしますのでそちらをご覧ください。

◎新患はできるだけ紹介状(診療情報提供書)の持参をお願いしています。

◎この表における紹介状とは、医療機関から発行される診療情報提供書のことを指します。

◎新患の患者さんで紹介状を持参されない場合、初診時の保険外併用療養費として、1,620円を負担していただいておりますのでご了承ください。

◎神経精神科では、行政機関からの要請などによる緊急の場合を除き、原則として新患の受付を行っていませんのでご了承ください。

※1 神経内科の新患は原則受付しておりませんが、受診希望のかたは地域連携室までご相談ください。

## ～扇田病院～

科名	曜日	月	火	水	木	金	備考	
内科・外科	午前	8:30～11:00						
	午後	急患のみ						
	夕やけ(午後)	5:00～6:30	休診	5:00～6:30	休診	5:00～6:30		
整形外科	午前	休診	休診	休診	休診	8:30～11:00		
耳鼻咽喉科	午前	休診	休診	休診	休診	8:30～11:00		
眼科		午前10:00～12:00, 午後1:00～2:00 ※原則第1, 第3土曜日						詳細は扇田病院ホームページまたは電話でご確認ください。

## 研修医体験記

## 千葉北総病院救命救急センター

当院の初期研修医プログラムでは「日本医科大学千葉北総病院救命救急センター（以下、北総救急）」での研修を選択できます。北総救急では20名以上の医師が勤務し、集中治療室など高度な治療を行う病床を有しており、千葉県および茨城県南部の全域をカバーするドクターヘリ事業が特徴的です。外傷症例の集約化による先進医療の維持・発展を目指しており、深夜の玉突き事故による重傷患者5名の同時受け入れ、ヘリ到着時からの開胸心臓マッサージ、落差10mにも及ぶ落下事故対応など、これまで想像もできていなかった医療現場を体験できてとても刺激的な1か月でした。症例としては外傷性くも膜下出血、頸髄損傷、緊張性気胸、腰椎破裂骨折、骨盤骨折などの治療にあたりました。

様々な経験を通して身が引き締まる1か月間であると同時に、職員の皆さんに支えられて研修できている当院の有難味も実感することもできました。研修医一同、今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

研修医（1年目） 唐沢 貴生



## がん医療公開講座を開催しました

10月28日に、がんの化学療法・放射線療法の医療水準の向上をはかるための研修としてがん医療公開講座を開催しました。講師として、国立がん研究センター東病院より大津 敦院長をお招きして、「がん薬物療法 最近の進歩と課題」をテーマにご講演いただきました。

国立がん研究センター東病院は、年間7,000人の新患を受け入れるがん専門病院であり、「世界最高のがん医療の提供」、「世界レベルの新しいがん医療の創出」を目標としています。

講演では、実際の症例を提示していただき、手術と薬物療法を組み合わせた治療が生存率を引き上げていることや、最新のがん薬物療法について具体的にご説明いただきました。

当日は100名以上の医療・介護関係者が参加し、講演後には最新のがん治療にかかる費用や、東病院が抱える患者の地域性などについての質疑応答が行われました。



## 編集後記

今回の病院だよりの表紙は10月19日に大館市立総合病院で開催された「地域を支えるドクター育成事業」の一コマです。数多の難手術を経験されてきた舘岡院長から、県北地域の高校生に手術の説明や手術器具の取り扱いなどが伝授されました。思えば、自分が高校生の頃は、将来何になりたいか考えずに、ひたすら部活動に明け暮れて過ごしていたなあ…。その結果、予備校に入学することになったわけですが、浪人もなかなか勉強に身が入らず…。気がつけば12月。「後悔先に立たず」どころか、後悔する暇もないほど追いつめられ、猛勉強開始。何とか合格したけれど、高校時代に舘岡院長の指導を受けて医師を志していれば、浪人しないで済んだかも…。

（編集委員長 湯澤 映）